

2011.10.20(木)

105号

編集責任:カムラ

編集担当 三好
大洲
中村

* よりそく Side by Side

THE KNOKE FAMILY VISIT AGAIN!



10月19,20日、石川県在住のクノキファミリーが遠野まごころネット会議室にてライブを行いました。彼らにとって今回は三回目の訪問、この五日間の滞在中は大槌町の赤浜等の仮設住宅を回って演奏活動を行いました。ライブで演奏したのはビートルズ、カーベンターズ、サイモンアンドガーファンクルなどの誰にもなじみのある曲に加え「涙そうそう」「翼をください」などのみんなで歌える日本の名曲の数々。ギター、ベースにドラムセット同様の音が出るペルーの打楽器「カホーン」、そして何より兄妹の心地良い歌声のハーモニーに皆ひきこまれ、あっという間のひとときでした。

今回は14人兄弟のうち7人の編成、メンバーはMegumi(Vo),David(Driver),Cephas(Video),Chris(Vo,g),L.J.(Perc),Eman(Bs),Mary(Camera)、10代と20代の仲良し兄弟は、ライブ以外でも常にぎやかで明るく、みんなの笑顔の中心となっていました。

代表でクリスに話を聞きました。「前回は避難所を訪問し、今回が初めての仮設住宅訪問でした。このために用意してきたのは”川の流れのように””なごり雪”などの日本のなつかしい名曲たちです。今日は仮設住宅の敷地内で演奏しましたが、「赤とんぼ」を演奏中に観客の方の腕に偶然とんぼが止まって、すごく特別な感じがしました。赤じやなかつたんですけど(笑)。岩手の自然はとても美しいので、毎日遠野と大槌を車で往復して、窓の外の景色を見るのがみんなとても楽しみでした。

5月、6月と二回来ていて今回は五日間もいたので夕方まごころネットに戻ってくるときは、まるで自分たちの家に帰ってくるような気持ちになっていました。前からずっといる人たちに会えたのもとてもなつかしくて嬉しかった!長くいる人たちのことは本当に尊敬しています。次もまた絶対来ます。今回新しく出会った人たちにもまた会えるといいなと思っています。

ボランティアの皆さん、元気で活動を頑張り続けてください。また遠野に来た時に皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

—クリス

まごころの郷づくりレポート Vol.8 寄稿:宮本班長

10月14日 「植え付け完了」

「まごころの郷」整備、今日はめでたく茨城の柳生さんから送って頂いた苗の植え付けを昨日から続けて参加してくれた京都の林さんご夫妻、青森の中島さんの手助けで無事完了しました。NY出身のピーターさんも一生懸命スキの株を起こして下さいました。ありがとうございます。

もう一つ、連報、「まごころの郷」に仮設トイレが設置されました。トイレを設置した業者の方が「あのスキだらけがこんなになるなんて、しかも全部人力でスゴイ」と感激されていました。使用第一号は受付をしている原元娘でした。「めっちゃせまい!戸を開めたら扉が目の前や」お前が育ちすぎるとんや。その後16日の開所式案内のチラシを周辺仮設住宅にまきました。「毎日見てるよ、だんだん畑ができる」と声をかけて下さいました。注目して下さっているのがとても嬉しかったです。日々充実していく「まごころの郷」明日からの展開、乞うご期待。



10月15日 「水没」

今日は明日の開所式の為、地元の方、仮設住宅の方に案内をしようと24名で乗り込みました。郷に到着して嘆然呆然、笑うしかない。湖になっていました。昨日植えたキャベツも水の中。原因は私。昨日作業終了後、用水路の取



水口を閉じていなかったのと、水が少なかったので堰を作っていたのですが、それをそのままにしていた為、夜の雨であふれかえってしまいました。苗を送ってくれた柳生さん、ごめんなさい。どないしようかと頭を抱えていましたが、参加者から「恥をさらして地元に人に意見を聞いたらいい」と尻をたたかれました。

気を取り直し、四班に分かれチラシ配りを始めました。反応はいろいろ。「お茶をどうぞ」とさそられた、果物を頂いた、「今まで誰がしているかわからなかった」「せっかく苦労しているのだから続くものになると嬉しいね」、いろいろな方から注目されているのがはっきりわかりました。

昼からはチラシ配りと畑の水抜き作業です。明日は開所式、明日は明日の風が吹く。ケセラセラ。(続)